＜先週の説教から＞

『ヘブライ㉝ー信仰の継承とは？』

武田真治牧師

創世記 ２８：１～５　ヘブライ書 １１：２０～２２

アブラハムの生涯を貫いていたものは、神様からの「父の家を離れて、わたしが示す地に行け。そうすればあなたの子孫は祝福される」という約束を信じて歩み抜くことでした。その信仰は、彼一人の代で終わることはありませんでした。彼の息子イサク、更にその子供のヤコブ、そしてこの子のヨセフへと実は引き継がれて行ったのでした。それが、『創世記』12章から後、最後の50章まで続く“約束を信じて生きる生き方の継承＝信仰の継承”と言い得るでしょう。その生き方は、やがて民全体に影響を与えて、イスラエルの民全体が生まれた場所であるエジプトを「離れて、わたしが示す地に行け。そうすればあなたの子孫は祝福される」という約束を信じて“出エジプト”して行く歩みへと受け継がれていくのです。それが『出エジプト記』となるのです。

本日の箇所はそのイサク、ヤコブ、ヨセフの生き方・信仰を紐解いているところです。即ち「信仰によって、イサクは、将来のことについても、ヤコブとエサウのために祝福を祈りました。信仰によって、ヤコブは死に臨んで、ヨセフの息子たちの一人一人のために祝福を祈り、杖の先に寄りかかって神を礼拝しました。信仰によって、ヨセフは臨終のとき、イスラエルの子らの脱出について語り、自分の遺骨について指示を与えました。」です。

その三人が各々、死に臨んで何をしたかという点を注目しています。イサクは年を経て、もう目が見えなくなった時に自らの祝福を子供に残したいと願いました。彼はエサウを祝福したいと思ったのですが、ヤコブの企てによって、ヤコブの方を祝福してしまします。ただ、その後にエサウの方にも将来についての言葉をイサクは与えていますから、結果的に二人に“祝福”を与えたとヘブライ書は考えているのです。彼が残した祝福は「アブラハムの祝福がお前とその子孫に及ぶように」というものでした（創世記28章4節）。

同じようにヤコブも死に臨んでヨセフの息子たちに『わたし先祖アブラハムとイサクがその御前に歩んだ神よ』と祈りそして礼拝しながら祝福を与えました。ここで「杖の先に寄りかかって（ニギリシア語訳の旧約聖書の言葉）」と言われている「杖」とは、羊飼いの杖であり、それに寄りかかり立つとは、再び“旅立つ時の姿勢”をしながらという意味です。その生涯を旅に暮らしたことと、これから天へと旅立つ思いを子孫たちに示しながら最期の祝福をしたと言い得ます。

ヨセフもエジプトで望みうる最高の地位と家族を与えられたのに、自分の“故郷”はここではないと、いつか約束の地に遺骨を持って行ってほしいと願い、祝福を与えます。

このように彼らは皆、神様からの“祝福”を後の世代にもと祈りながら、同時に最後まで自分の生き方を貫き、その姿勢を子孫たちに示して行きました。これこそ“信仰の継承”と言い得るでしょう。祝福の祈りを継承していきましょう！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．１月 25 日（水）20：00
　　Ⅱ．１月 26 日（木）10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　長欠者を覚えて
担 当 者：　（水）大竹　（木）高橋
祈りに覚える人：　伊藤さん　茨城さん
ひつじ雲の会：1月24日(火)　13:30～

【教勢報告】

主日礼拝　　男　21　　女　57　　計　78
祈祷会　Ⅰ．男5　女3　計8　　Ⅱ．男3　女9　計12
日曜学校　　幼稚科 10　小中科 14　　計　24

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【次週主日礼拝】　　１月　２９日（日）

聖　書：　申命記　２４：１７～２２
　　マタイによる福音書　１８：２１～３５
説　教：　「主の赦しの中で」
　　熊江 秀一 牧師（大宮教会主任牧師）
讃美歌：　１１５(1)、３２(1)、５５(1と2)、
　　４４９(1～3)、２８

【次週当番表】

司式:相浦長老　奏楽:中村　礼拝:坂雄長老
献金：飯島　伊藤　　受付：東　佐々木
会堂準備：東　阿部　伊藤　伊藤
　　岩井明彦
看板：岩佐　　週報：小草　　お花：

【次週集会予定】礼拝前：・聖書輪読会

６４－　４

週　報

2022 年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２３年　　１月　２２日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/